

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

第75回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

雨戸には多くの機能がある。1つ目は、台風などの強風で窓ガラスや障子が破損するのを防ぐ。童巻が襲来した際に、雨戸を閉めていなかった家ではある方角に面した窓ガラスがすべて割れてしまったが、雨戸を閉めていた家は雨戸に傷が付いただけで済んだ、という事例が報告されている。2つ目に、構造的に丈夫で、かつ内側からしか開錠できないため、防犯の効果がある。3つ目に、遮光性が高く、起床時までぐっすり眠ることができる。4つ目とし

雨戸の多面的役割

て、断熱材を充填することで断熱効果が期待できる。これらを踏まえると、雨戸は非常に機能的な建具といえる。
しかし、近年、雨戸をつける住宅が減少している。また、伝統的な雨戸ではなく、シャッター付きのサッシも多くなっている。なぜだろうか。まず、サッシとガラスの強度が高くなっている。サッシの見込み厚が厚くなるとともに、2枚のガラスを

ボタン操作でシャッターを閉めることができ、非常に便利である。次に、戸袋が不要で窓の位置の制約が少なくなる。さらに、シャッターの巻き取り部分で庇を兼ねることができ。しかし、シャッターは機能的な半面、外観が単調、無機質で、住宅にふさわしいデザイン性を感じないことが多い。

雨戸には物理的な機能のほか、居住者の住まい方や近隣との関係を示すヒューマンな側面がある。雨戸は自らの力で開けたり閉めたりするため、居住者の生活リズムを作り出す

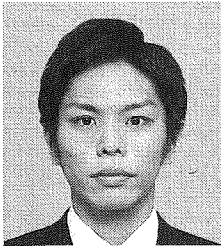
伝統的建築手法を見直そう

一体化したペアガラスも一般化し、両者一体の堅固な建具が使われるようになったために、強風からサッシを保護する雨戸の機能が不要となった。しかし、強度が高い窓は価格が高いのが難点である。住宅工事に占めるサッシ工事の割合は思いのほ

か高い。
シャッター付きが増えている理由として、まず、利便性の高さがある。

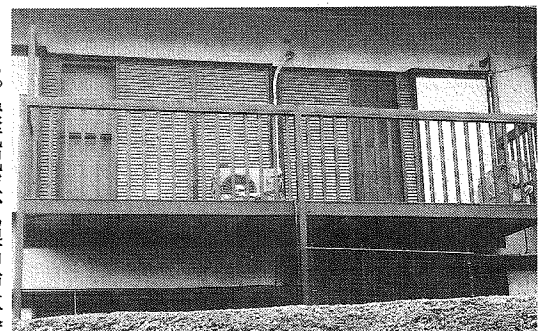
ことができ、近隣の居住者に対して生活していることを知らせることができる。

【教員のコメント】
外部建具の課題は費用の高さと断熱性の低さだ。後者を高めるためのペアガラス、二重サッシがさらに前者を高めるシレンマもある。大きな開口部を特徴とする日本の住宅建築に必然のアイテムとして雨戸を見る眼力が頼もしい。



垣田 将吾
不動産学部4年

高い。
シャッター付きが増えている理由として、まず、利便性の高さがある。



生活のリズムをつくり出す雨戸。その役割は大きい